

今日、23日は「秋分の日」...、だと思っていたのですが、間違えていました...
今年はず日の22日が「秋分の日」だったのです。
これまで32年もの長い間、「秋分の日」は「9月23日」だったのですが...

そもそも
「秋分の日」はどのようにして決められているのでしょうか？

調べてみたところ...

太陽が「秋分点」とよばれる方向にやってきたときを秋分とよび、秋分が起こる日を「秋分の日」と決めているそうです。

今年、日付が変わる直前の9月22日23時49分が「秋分」のタイミングでしたので秋分の日も「9月22日」になったということでした。

では、今後はどうなるのかというと...

2044年までは閏年に限り9月22日、平年は9月23日ということだそうです。

さて、「秋分」とは、春分と同じく昼夜の長さが同じになる日のことです。

でも、昼夜の長さが同じと言っても、気温は秋分の方が（春分よりも）10度ほど高く、まだまだ夏の名残を感じさせますね。

というわけで、秋分よりも1日遅くなってしまいましたが、南河内の里山に出かけて、「小さい秋」を探してみました。

写真 ~ : 「ヒガンバナ」

一本の茎に6つほどの真っ赤な花が咲き、雄しべや雌しべを空に向けて広げています。

水田の畦に咲いているところを見ることが多いですが、ネズミやモグラなどの田を荒らす動物が、この花（鱗茎）の毒を嫌って近寄らない、という効果を期待して植えられてきたようです。

仏より瘦せて哀れや曼珠沙華（夏目漱石）

写真 ~ : 熟した柿の実を食べる「メジロ」

柿の木にメジロが数羽集まっていたので観察していると、熟した実に顔を突っ込んで、柔らかな果肉を舐めているようでした。

写真 : 「クリ」

外見は緑色ですが、随分大きく育ってきました！

















